

# 令和6年度 浜松市立上阿多古小学校 学校評価報告書

## I 自己評価

昨年12月の「学校評価アンケート」の結果を、下記のとおり報告します。

【調査対象】 児童・保護者・教員 【選択肢】 ○大変よい ○よい ○やや不十分 ○不十分

【集約方法】 ・「大変よい」「よい」の割合…90%以上 ■  
 ・「大変よい」「よい」の割合…70%～90% 無色  
 ・「大変よい」「よい」の割合…70%以下 ■ (%)

### 1 「自ら学びに向かう子」

	児童	保護者	教員
「やりたい」「分かりたい」という気持ちをもって、学習に取り組んでいる。	91	90	100
友達や教師、他校の友達と関わったり、いっしょに調べたりしながら、課題を解決しようとしている。	100	90	100
先生は少人数のよさを生かして、一人一人に合わせた授業をしている。	100	100	100
学校や家で読書をしている。	91	90	57

### 2 「よりよい行動をとる子」

	児童	保護者	教員
「なりたい自分」や目標をもって、今、自分がすべきことや努力をしている。【キャリア教育】	100	80	86
おたがいのちがいを認めて、自分も友達も大切にしている。【学校いじめ防止基本方針】	100	90	86
相手の気持ちを考えて温かな言葉づかいをしている。	100	80	86
自分の目標を達成するために、うまくいかないときがあっても、挑戦している。(新評価項目)	100	80	72

### 3 「進んで体を鍛える子」

	児童	保護者	教員
「早寝・早起き・朝ご飯」が身に付いている。	100	90	86
体育の学習やスポーツフェスティバルで、自分が決めためあてに向かって、進んで取り組んでいる。	100	100	100
外へ出て、元気に遊んだり活動したりしている。	100	100	100

### 4 「ふるさと上阿多古を大切にする子」

	児童	保護者	教員
家庭や地域の行事に進んで参加している。	81	100	86
家族や地域の人に進んであいさつをしている。	81	90	100
家族や地域の人の手伝いを進んでしている。	100	80	86
地域の人や自然と関わる活動(全校遠足や地域探検など)に、楽しんで取り組んでいる。	100	100	100

### 5 学校への御意見・御要望

<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を思いやり、目標に向かってチャレンジして行って欲しいです。</li> <li>・学校が楽しいようです、ありがとうございます。</li> <li>・人数は少ないですが、子供が楽しめる行事などを残して続けて行ってほしいです。</li> <li>・児童数や行事の減少のある中で、学校と地域で協力して限られた人数でも工夫して行事に取り組んでいただけると幸いです。</li> </ul>
---

## 6 学校から

○児童の自己評価は、多くの項目で「大変よい」「よい」が9割を超えていた。目指す子供像に近づけるよう、取り組んできた成果と言える。

○「学校や家でよく読書をする」については、教員が低い評価となった。年間を通して図書室の利用者が少ない時期と多い時期があったためだと考えられる。読み応えのある本は揃っているのに、絵本の数を増やして児童の関心を高めたい。また、学校では週2回の朝読書の時間や、週末の本の持ち帰りを続けている。今年度は読書週間で「読書郵便」を実施した。互いにおすすめの本を紹介することで、図書室の利用が活発になった。次年度も継続し、本に親しむ取り組みを進めていきたい。

○1学期の評価と比べると、「友達や教師、他校の友達と関わったり、いっしょに調べたりしながら、課題を解決しようとしている。」の子供と教員の評価が上がっている。今後も教育活動を工夫したり他校と連携したりして協働的な学びの場を確保していきたい。

○多くの子供たちが休み時間に外で体を動かしている。縄跳びのできる技を増やすために友達同士で見合ったり全校でドッジボールをしたりすることで、異学年交流としてもよい場となっている。

## II 学校関係者評価

2月18日（火）に開催した学校運営協議会において、自校評価結果、考察及び改善方策について委員に報告。また、「いじめ防止対策基本方針」に基づく取り組みについても委員に報告。委員とは、以下のような質疑応答を行った。

○「友達や教師、他校の友達と関わったり、いっしょに調べたりしながら、課題を解決しようとしている。」の項目において、タブレットパソコンの効果はあるか？また、読書の機会を増やしてほしい。  
→少人数学級であるため、授業で意見を交流するツールとしてタブレットパソコンを使用する機会は少ない。しかし、タブレットパソコンを使用して、今年度も他校とオンラインで交流をして学びを深めることができた。読書については、火・木で朝読書などがあるが、本に親しむ時間は今後も確保したい。

○子供だといじめ、大人だとパワハラ。いずれも相手の主観である。周りから見た場合と本人の感じ方に相違があると思う。

○いじめ防止への取り組みは、具体的にはどのような対応をしているのか。  
→日々の観察に加え、毎月のアンケートやそれに伴う面談等を活用し、早期発見に努めている。いじめの疑いを認知した場合、即時対応し、双方の家庭へも連絡している。

○上阿多古小は全員で遊んでおり、お互いを分かり合っているのに、いじめは感じない。人を思いやることが一番大切。

○家庭でいじめに関する会話は出てこない。前の学期を振り返り「こんな時どうする？」という活動は、子供たちに気付きや変化を与えるので良い。

○教師によるロールプレイを行った後、みんなで話し合い、自分たちで考えるということが良い。全校で仲が良かったため、いじめの心配がないのでは。

○個人的に思うことはあるだろうが、表面的に出すか出さないかの問題。子供に寄り添って先生が見てくれている。子供たちが良い表情をしている。  
→日々の声掛けなどで、子供と教師、保護者と教師が解決できるような間柄になっているのが大切。

## III 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について再確認した。

○今年度の評価を生かし、次年度の目標達成に向けて、全職員で共通理解を図り教育活動に取り組んでいきたい。特に、児童と大人の評価に差異がある箇所は、取り組みの見直しを図り、改善を目指したい。

○学校運営協議会委員のいじめ防止への関心が高かった。今後も一人一人の児童を大切にしていく。また、保護者や地域との連携を密にし、信頼関係を維持していきたい。

○来年度、6年ぶりに児童数も実家庭数も増える。これまで以上に地域との連携を図り、学校での取り組みを家庭や地域に知らせていきたい。